

# 診療所における在宅診療の実践(その1)

## 在宅診療に取り組んだ歴史

松尾クリニック

院長 松尾美由起



### I 納得のいく医療をめざして

大学を卒業してすぐに研修病院として勤めた病院(淀川キリスト教病院)は、「全人的医療」を常にめざし、その頃より患者側に立つ地域の医療を模索していた。

5年目から24時間体制の医療をうたった病院(八尾徳洲会病院)で循環器を専攻し3年余り経ったころ、ペースメーカーだ、カテーテルだと走り回っていた私に、地域医療部を担当しないかという話もちあがった。昭和58年頃の事である。その当時「地域医療」ということばが次第に普及(?)しつつあったが、実際には具体的に何をどうしたらいいのかわからないという程度であった。病院内での理解度もまだまだ低く、いわゆる慢性期病棟の管理ぐらいにしかとらえられていなかったように思う。ベッドの回転も考慮して、積極的に寝たきり状態の患者さんを退院にもっていき、病院から往診を始めていた。週1回ケースカンファレンスをひらき、作業療法も含めて在宅リハビリや在宅での管理を検討してチームとして動き出していた。しかし、「悪くなったら連れてきなさい」、「急変したら死亡確認に行きます」では何か心苦しい気がしてならなかった。

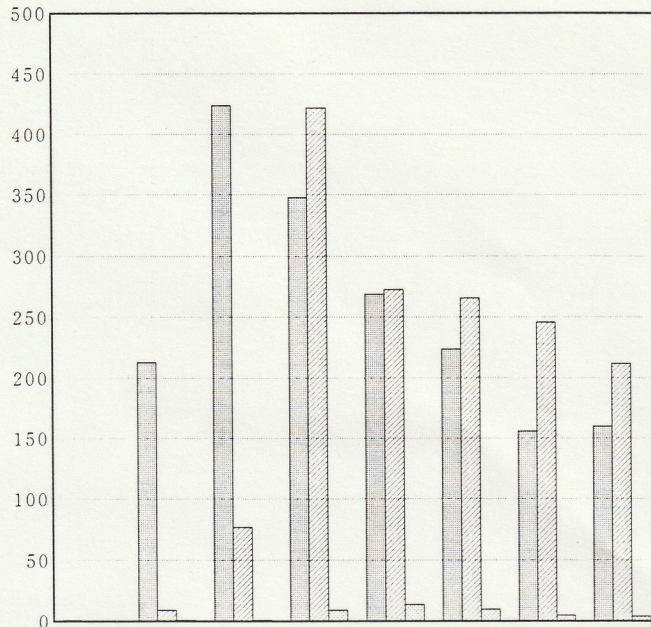
そんな時に、志を同じくした者で地域に根ざした医療をしようという事になり、松尾クリニックをオープンしたわけである。「納得のいく医療」をめざして、(1)高度な医療レベル、(2)親身になった在宅診療、(3)患者さんとの交流(患者さんがより病気の理解を深め、積極的に病気と付き合っていけるように)の3本の基本方針を考えた。従って、開業当初(昭和60年)より、在宅診療を開始することとなった。

### II 在宅診療事始め

開院時の職員は看護婦3人(内パート1人)と事務1人、放射線技師1人である。看護婦1人と共に在宅診療を始めた。最初は前病院から紹介された患者さん2人であった。

○図1. 在宅診療総数と訪問看護総数

(単位:回)



	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年8月
往診総数	1	213	424	348	269	224	156	160
訪問看護総数	0	9	77	422	273	266	246	212
在宅外総数	0	1	1	9	14	10	5	4

いわゆる“往診”と思って、風邪で熱がでているので来てくれという20代の人からの電話もしばしば。1度は訪問して「在宅診療」とは寝たきり状態あるいはそれに準じた状態の患者さんを家で定期的に診療するのだと気長に説明した。また、逆に「来てもらうなんて…」と遠慮する家族もあり、まだまだ在宅診療への理解度は低すぎる時期であった。

もとより、地域に根ざした医療が目的である。できるだけ患者家族の負担を少なくしたかった為、いわゆる交通費などは受けとらず保険診療の負担金のみとした。急変時には多少待ってもらう事を確認し、夜間でも単独で緊急往診した。重症例では一日2～3度訪問する事もあり、出来ないときは電話訪問をした。クリニックの電話は自宅とポケットベルに転送し、24時間連絡できるよう配慮した。

## Ⅲ 診療内容の充実

ボツボツ遠慮がちに始めて1年ぐらいいして、ようやく家族との人間関係も含めて軌道にのり始めたといっている。そのころには月平均20～25人の在宅診療患者数となってい

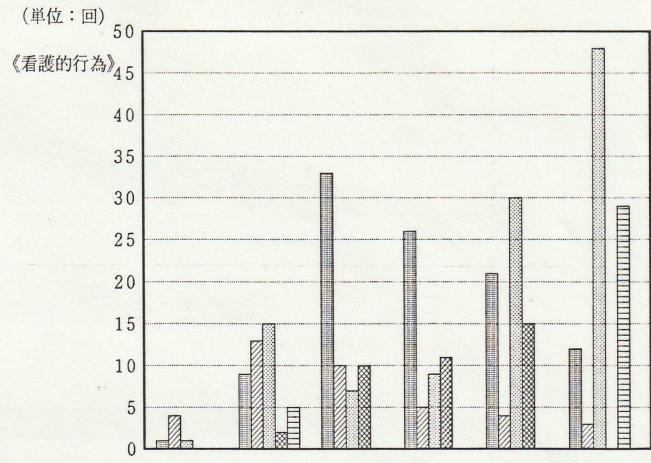
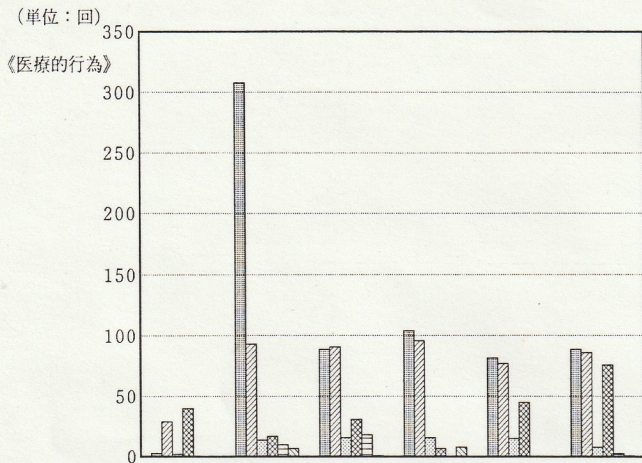
た(図1、図2)。患者さんやその家族が紹介してきてくれたり、保健婦さんからの依頼や老人福祉からの紹介が多くなった。その頃から職員も増やし訪問専用の車もリース契約した。看護婦2人で訪問看護を始めたからである。在宅診療のチームと訪問看護のチームが同時に動けるようになり能率が良くなったわけである。訪問距離は1～10キロメートルである。また、在宅酸素療法もスタートした。

クリニック開院後5年目には在宅診療患者総数は102名となり、疾患の内訳は図3の如くである。また、転帰状況では、死亡例は36.3パーセントでその内の半数以上は自宅死亡である(図4)。

この頃から少しずつ在宅診療が注目されるようになり、平成4年には「在宅総合診療課」が新設された。承認も受けて、現在は月一回のケースカンファレンスしながら医療機関、他の医療従事者、保健所、社会福祉協議会等と連携中である。クリニックでの課題は在宅患者さんの病状を(精神的観点も含めて)客観的に評価するシステムを考える事と、職種を超えて連携を密に実施していくことである。

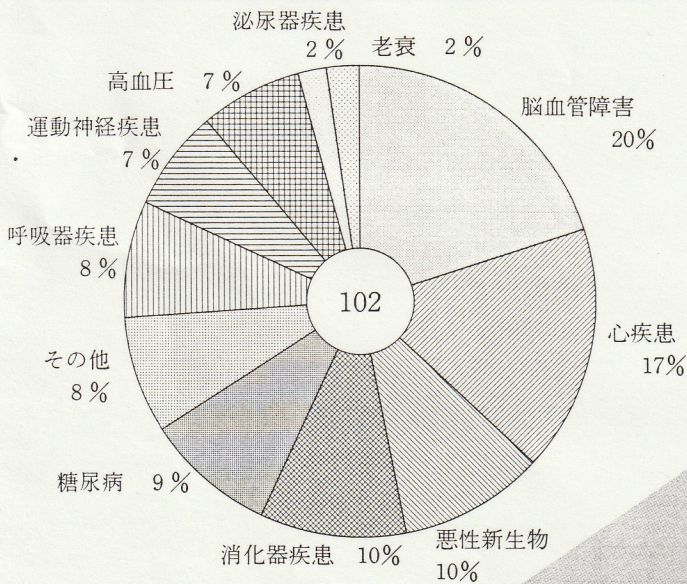
## ○図2.

## 年間別訪問看護数

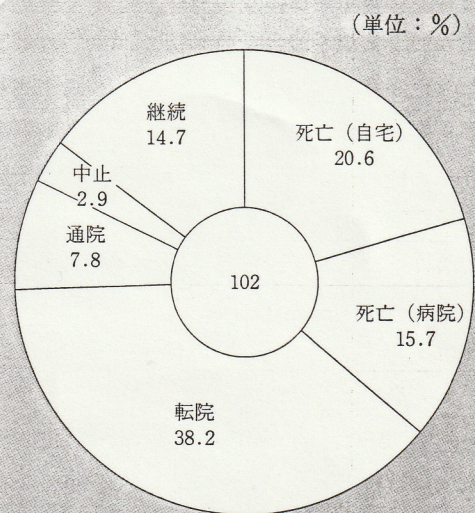


	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年8月
点滴,注射	3	308	89	104	82	89
採血	29	93	91	96	77	86
F交換	2	14	16	16	15	8
ガーゼ交換	40	17	31	7	45	76
排便,浣腸	0	10	18	0	0	3
EKG(ホルター含む)	0	7	1	8	0	1

	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年8月
訪問(介護指導)	1	9	33	26	21	12
洗髪	4	13	10	5	4	3
清拭(全身,部分)	1	15	7	9	30	48
入浴介助	0	2	10	11	15	0
寝衣,シーツ交換	0	5	0	0	0	29



## ○図4. 在宅患者の転帰状況



## ○図3. 在宅診療総数と訪問看護総数

平成4年9月現在

総患者数	15(人)
男性	3(人)
女性	12(人)
平均年齢	80.7(歳)
〃 男性	83.7(歳)
〃 女性	79.9(歳)